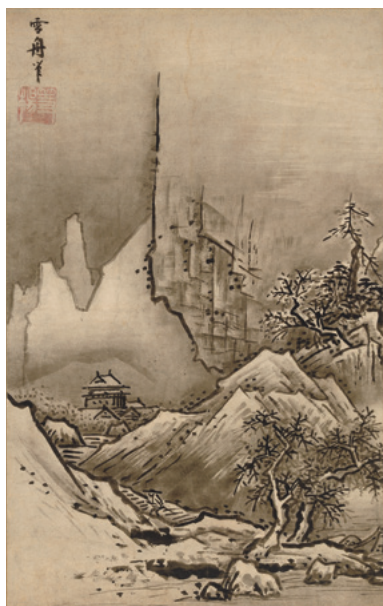


# 石川県立美術館だより

第506号 令和7年12月1日発行

BIJUTSUKAN  
DAYORI

ひと、能登、アート。



国宝《秋冬山水図》 雪舟等楊 東京国立博物館蔵  
— 「ひと、能登、アート。」 より —

- 加賀藩の美術工芸Ⅰ・Ⅱ【前田育徳会尊經閣文庫分館】
- 久隅守景の四季耕作図／茶道美術名品展【古美術】
- いしかわ工芸図鑑！／優品選・新春を寿ぐ【近現代工芸】
- ロック&メタル【近現代彫刻】
- 優品選【近現代絵画・彫刻】
- 書之美【近現代書】

- 寒糊炊きの公開
- 12月の行事予定
- アラカルト ただいま展示中

前田育徳会尊經閣文庫分館

## 加賀藩の美術工芸Ⅰ

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休

## 企画展(第7～9展示室) ひと、能登、アート。

主催／石川県立美術館・金沢21世紀美術館・国立工芸館・石川県・金沢市・東京国立博物館  
共催／北國新聞社

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休

金沢21世紀美術館 令和7年12月13日(土)～令和8年3月1日(日)  
国立工芸館 令和7年12月9日(火)～令和8年3月1日(日)

令和6年の能登半島地震、奥能登豪雨災害で被災した人々に寄り添い、心を癒しますため、東京国立博物館が立ち上げた「ひと、能登、アート」特別展が、引き続き開催中です。石川県立美術館では、開催が今年21日までとなりましたが、9日より国立工芸館、13日より金沢21世紀美術館の展示も始まります。今回も東京国立博物館所蔵作品から出品作を紹介しましょう。

国立工芸館は特別展「工芸と天気展」とあわせての開催です。同展の観覧券をお持ちの方は、無料でご覧いただけます。ここでは教科書でもおなじみの、◎《遮光器土偶》を見ることが出来ます。スノーゴーグル(遮光器)を付けているように大きな目など、特徴ある人体表現の土偶です。他に仁清作◎《色絵月梅図茶壺》など、石川県にゆかりのある作品を中心に展示します。

金沢21世紀美術館では、近代から現代までの国内外作家による絵画、彫刻作品がご覧いただけます。チラシ掲載の《聖徳太子像》は、近代彫刻の名匠・佐藤朝山による初期代表作の一つです。さらに現在も意欲的に活動する横尾忠則が、2年前に制作した《2023-106-27》など、バラエティーに富んだ展覧をお楽しみいただけます。

前田家と徳川将軍家との関わりを、美術工芸品、特に能装束と絵画から探ってみましょう。

「加賀宝生」といわれるように、加賀藩で宝生流の能が盛んになったのは、五代藩主綱紀の時代、五代将軍綱吉の宝生ひいきが影響していることです。綱紀が綱吉の命により、貞享3年に江戸城で《桜川》を舞ったのが、そのはじまりとされています。

江戸後期の十一代将軍家斉の時代、徳川家はふたたび宝生流を愛好し、同じ頃加賀藩においても能が盛んとなります。十二代斉広と、家斉の二十一女偕(溶姫)を室に迎えた十三代斉泰の時代です。

嘉永3年3月21日、十二代将軍家慶の前田邸御通抜にあたって、家慶より拝領した八丈縞から仕立てた能装束が《黒地茶三重格子厚板》です。家慶は妹にあたる溶姫を訪ねたと思われませんが、前田家では御

両館とも会期は来年3月1日まで。3館すべてを同時期にご鑑賞できるのは、12月21日までの期間となります。表紙で紹介した、雪舟等楊の◎《秋冬山水図》をはじめ、東京国立博物館でも一堂に会することはほとんどない名品群です。この機会にぜひご来館ください。

※●は国宝、◎は重要文化財

観覧料 一般 1,000円(800円) 大学生 800円(600円)  
高校生以下無料

(一)内は65歳以上の方、または20名以上の団体料金

身体障がい者、精神障がい者保健福祉療育手帳をお持ちの方、またはミライロIDをご提示の方および付き添いの方1名は観覧無料  
能登(内灘町以北)の方は観覧無料

※被災後、能登から移住された方も無料。

※観覧無料の対象となる市町は左記のとおりです。

七尾市・輪島市・珠洲市・羽咋市・かほく市・津幡町・内灘町・志賀町・宝達志水町・中能登町・穴水町・能登町



◎《遮光器土偶》東京国立博物館蔵  
(国立工芸館にて展示)

通抜にあたり並々ならぬ労力を注いでおり、拝領した八丈縞を能装束に仕立て、大切にすることがうかがえます。

前田家と徳川家との関わりは、二代将軍秀忠の二女珠を、三代利常の室として迎えたことにはじまります。珠の弟にあたるのが三代将軍家光で、家光の最初の御成が江戸加賀藩邸であったことは、徳川家も前田家とのつながりを重要視していたことがわかります。

育徳会には、家光をはじめ歴代将軍が描いた絵画も伝えられます。家光による《魚狗図(翡翠)》、家綱による《翡翠図》、家慶による《波月図》《日下暁鳥図》を、二期にわけて紹介します。

本誌5頁では、溶姫の婚礼調度について説明します。



《黒地茶三重格子厚板》

近現代工芸(第5展示室)

## いしかわ工芸図鑑！

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休

本展では、石川県の工芸作家のうち、芸術院会員や重要無形文化財保持者(人間国宝)の作品を中心に、さまざまな技法によって生み出される多彩な工芸作品を紹介します。

「茶どころ石川」とも称される本県は、近世以来、茶の湯の文化が盛んです。現在でも多くの人々が茶の湯を楽しみ、暮らしのなかに根付いています。茶の湯では、茶碗をはじめ、茶入、釜、水指、銅鑪など、多様な素材と技法による道具が用いられます。石川は、茶道具のほとんどを県内でつくることのできる、全国的にも稀有な土地といえます。また、近年注目を集める「加賀料理」に目を向けると、器や調度品、空間を設えるための工芸品に至るまで、当地の技術によって生み出されていることがわかります。こうした「つくる側」と「使う側」がともに存在する環境こそ、石川の工

芸が発展してきた大きな要因の一つといえるでしょう。本展では、当地でつくられた茶道具の設えもあわせてご覧いただけます。

本展の展示作品を紹介します。大樋焼は江戸時代より茶碗をつくり続ける窯元で、独特の飴釉と、手で土をこねて形をつくる「手づくね」の技法による温かみのある風合いが特徴です。十代大樋長左衛門(陶治斎)は、日展を舞台に活躍し、日本芸術院会員にもなりました。伝統的な茶碗づくりの技法を大型作品にも応用し、独自の造形世界を切り開いています。展示作品《飴釉壺「兎の夢」》では、飴釉の深い色合いを背景に、銀箔と刻線により描かれた兎が幻想的な趣を添えています。



十代大樋長左衛門(陶治斎)  
《飴釉壺「兎の夢」》

古美術(第2展示室)

## 久隅守景の四季耕作図

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休

謎多き絵師、久隅守景。狩野探幽門下の四天王と称され、のちに加賀へ下ったことが知られていますが、《四季耕作図》は、その加賀滞在中に数多く制作されたと考えられています。

なかでも当館の所蔵する、重要文化財《四季耕作図》は、日本の農村風景をみずみずしい墨と淡彩で描きとった傑作です。左隻の左から春、夏、右隻に移ってまた左から秋、冬と季節が移ろい、稲作だけでなく、鷹狩や鶺鴒、納涼する武家などの様子が魅力的に描かれています。この作品には合計62人の人物が描かれていますが、そのひとりひとりが生き生きと描写されており、また各場面の中で人物同士が有機的に連関している点が特徴です。例えば鷹狩の一行をみると、まずは橋上で真上を見上げる3人が注目されます。その視線を追うと、空中に急降下する鷹と

小鳥があり、鷹が小鳥をとらえんとする瞬間が描かれていることが分かります。橋のたもとには駆け寄る従者と犬を連れた従者がその様子を見守っており、背後の木立には馬と従者が控えています。のどかな農村風景のなかで、緊張感あふれる一瞬が見事に描かれているといえるでしょう。

本展示ではこのほかに、石川県指定文化財に指定されている《四季耕作図》(当館蔵)や、かつて加賀前田家から広島浅野家に贈られ、長く浅野家に伝来した《四季耕作図》(個人蔵)などを展示します。



重要文化財《四季耕作図》左隻部分 久隅守景



## 近現代絵画・彫刻(第3・6展示室)

# 優品選

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休

前号に引き続き、第3展示室では油彩画・版画・彫刻作品、第6展示室では日本画の優品を展示しています。

日本画分野から古澤洋子《未来の化石》を紹介します。作者は地球をミレニアムな視点で俯瞰し、街並みや地球の姿を様々に見立てる手法で鑑賞者を惹きつけます。この、あるものを別の何かになぞらえる「見立」は、重要な日本文化の一つ。本作では人々が暮らす集落を、アンモナイトの化石に見立てています。

油彩画分野からは沢オイ《世紀の風―New wing―》を展示します。プリキに油絵具で描かれています。現代的なビルディングの連なりをイメー

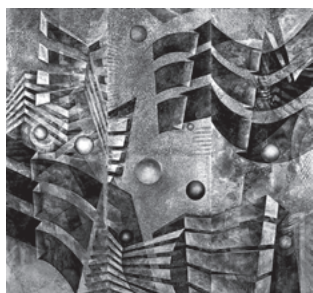
ジの根底に置き、遠近法を駆使した直線と球体で画面が構成されています。近年の沢の作風をよく示しており、エッシャーのだまし絵のような、重層的で

し、造形の基本形態に高めることを目指しました。展示中の《時の流れの中で`88`》《アルゴン溶接による試作》はどちらもさまざまな形の金属板を自由に組み合わせた作品。金属板を切り抜き、プレス機で曲げる、ボルトで取り付ける、溶接するといった手法を用いてユニークな形を作り上げています。素材と戯れるように生み出された遊び心のある造形に作者の「精神的なもの」があらわれているようです。

展示室には個性豊かな作品たちが並んでいます。本展から石彫と金属彫刻の素材、表現の魅力に触れていただき、多様なすがたと豊かな表現を持つロックとメタルな作品たちの世界をお楽しみください。

彫刻分野では、畝村直久《和》にご注目ください。畝村の《和》といえば3人の裸婦が立ち並ぶ作者の代表作ですが、今回ご紹介するのは同タイトルの別作品。椅子に腰かける小さな裸婦像です。「和」というタイトルで複数の作品を制作した作者ですが、本作でも小品ながら、女性像を得意とした作者の力量が表れています。

版画作品では当館所蔵の銅版画をご紹介します。銅版画は様々な技法がありますが、基本的には銅の板に自己の表現に合った凹凸をつけ、凹部にインクを詰めて紙に刷り取る版表現です。難波田龍起、相笠昌義らのエッチング、吉村佳映のアクアチントなど銅版画の作品をお楽しみください。



沢オイ《世紀の風―New wing―》

## 近現代彫刻(第4展示室)

# ロック&メタル

11月15日(土)～12月21日(日) 会期中無休

本特集展示は「ロック&メタル」と題し、石(ロック)と金属(メタル)を用いた彫刻作品を取り上げています。今号ではロックとメタルの作品をそれぞれピックアップしてご紹介します。

石彫からは、北川薫作品にご注目ください。今回は《石鈴》《比翼》《作品》の3点を展示しています。石彫の魅力を「素材で頑固で言い知れぬ温か味が自身を捉えて離さなかった」と北川自らが語るように、ご紹介する作品も皆シンプルな造形ながら、すべて素材の質感を生かした、素材な佇まいをしています。石という素材が持つ特徴の違いを比較しながら、北川が生み出した石彫作品をご覧ください。

続いて金属彫刻からは、重田照雄作品にご注目。重田は「心象風景や精神的なもの」をひとつの形に表現

し、造形の基本形態に高めることを目指しました。展示中の《時の流れの中で`88`》《アルゴン溶接による試作》はどちらもさまざまな形の金属板を自由に組み合わせた作品。金属板を切り抜き、プレス機で曲げる、ボルトで取り付ける、溶接するといった手法を用いてユニークな形を作り上げています。素材と戯れるように生み出された遊び心のある造形に作者の「精神的なもの」があらわれているようです。

展示室には個性豊かな作品たちが並んでいます。本展から石彫と金属彫刻の素材、表現の魅力に触れていただき、多様なすがたと豊かな表現を持つロックとメタルな作品たちの世界をお楽しみください。



重田照雄《時の流れの中で`88`》

# 茶道美術名品展

12月27日(土)～2月2日(月)

新年を迎えておこなわれる初釜にあわせ、例年の時期に本館所蔵の茶道具を紹介しています。本館のコレクションは、野々村仁清の国宝《色絵雉香炉》を所有していた山川家所蔵の茶道具が中心です。今号では、明治時代の数寄者高橋箒庵が記した『金沢蘭秘録』から、「眼福の百年目」とも称した金沢での明治45年の鑑賞記録を追いつながら、展示作品を紹介いたします。

箒庵は金沢について「十分に限らず、一般平民に至るまで」「茶事を嗜み、謡曲を好み、書画・骨董を玩んだと認識しており、明治維新の争乱が影響しなかったため、三都(江戸・京都・大阪)の名品は「往々加州人の手に渡った」と述べています。例えば、『青井戸茶碗宝樹庵』は、大阪より入ったと挙げます。

山川家を訪れたのは、金沢滞在3日目です。奥座敷の床に掛けられた書画軸の前に、『色絵雉香炉』が、書院には尾形光琳による硯箱も飾られており、ここで主人・山川庄太郎の挨拶がありました。

続いて案内された蔵器陳列室には、狩野常信の《七人狸々図》、《黄瀬戸小蕪花入》、仁清の《花笠香合》、尾形乾山の《黒釉蒲公英図茶碗》などが並びます。

特に、『和蘭陀白雁香合』については「高名天下に隠れなきものなり」と絶賛し、「今日之れに対面する事を得たるは余の大に満足する所なり」「天下第一の白雁」と記しています。

一方、松岡氏が所蔵する宝樹庵は見られず、京都へ引き返したことは「遺憾なる」と述べています。



石川県指定文化財《和蘭陀白雁香合》  
デルフト窯

# 加賀藩の美術工芸Ⅱ

12月27日(土)～2月2日(月)

前田家十三代斉泰に嫁いたのが、徳川家十一代家斉の二十一女の偕です。溶姫の名で知られています。溶姫を迎えるために加賀藩の江戸屋敷に建てられたのが赤門で、現在では東京大学のシンボルとなっています。溶姫の婚礼調度は一式、本館で保管されており、次年度4月に東京国立博物館にて開催される『百万石! 加賀前田家』では、厨子棚・黒棚とともに華やかに紹介される予定です。

特集展示「加賀藩の美術工芸」では、溶姫調度のうちⅠ期に鼻紙台・鬢台・眉作箱・小蓋を、Ⅱ期に見台・櫛台・色紙箱・楊枝台を紹介します。いずれも松唐草模様と徳川家の家紋である丸に三つ葵が配されています。

どれも同じ模様ですが、眉作箱の蓋は、紙を折り合

わせたようなデザインとなっています。眉を整えるブラシや筆、髪を整える毛筋立、白粉合子、白粉解、化粧水入、鬢水入などを納めました。これら化粧道具は櫛台の引き出しにも納められており、姫君の身支度用として複数用意されたのです。また外箱だけでなく、中に納める細かな道具まで松唐草に葵紋の模様で仕上げられており、嫁ぐにあたり特別に準備されたことがわかります。

お歯黒をする前に歯を磨くために用いるのが、楊枝台です。台の上に楊枝箱を置き、ほこりをかぶらないように上からは蓋を被せます。婚礼調度の中でもこうした道具から、当時髪をどのように整え、お化粧を施したかがうかがえます。



《葵紋蒔絵調度品》のうち 眉作箱 溶姫所用

## 優品選

12月27日(土)～2月2日(月)

1月の日本画分野では「米僊まつり」ではありませんが、久保田米僊の作品を3点展示します。米僊は優れた画家であっただけでなく、京都府画学校の設立に奔走し、石川県工業学校(現・石川県立工業高等学校)でも教鞭を執るなど、美術教育に大きく貢献しました。今回は正月にあさわしい《富岳図》などを展示します。

油彩画分野では、六反田英一《夢見る刻》にご注目ください。こちらを振り返る女性の背景には、横たわる女性の姿が描かれ、幻想的な星空が広がっています。六反田は変容する世界の中にある瞬間の美しさと、神秘的な女性像をテーマとしています。この作品は第72回二紀展で田村賞に輝きました。

素描・版画分野からは、脇田和の作品を取り上げま



久保田米僊《富岳図》

## 書之美

12月27日(土)～2月2日(月)

日本では中国から漢字がもたらされ、平安時代には日本独自の仮名が生み出されました。漢字や仮名である文字は、表現や伝達という実用的な役割とともに、各時代の文化や思想を背景にしながら、多くの人によって美的側面が育まれ、洗練されていきました。やがて、書いた人の趣や個性を示す書風の展開や個人の美意識を表現したものに変化するなど、その芸術性も高められていきました。このように記録としての文字に芸術的意思を働かせて、生命を与えたものが書なのです。

現代では墨と筆で書く毛筆は日常の用途から離れ、文字は情報伝達の記号へと役割を変えつつあります。今日、書の作品を前にした時、何が書いてあるか読めない、また、読むことができていても内容が十分に理解できないなど、鑑賞が「むずかしい」と感じてい

る方もいらっしゃるかと思います。しかし、人は無意識に自らの美意識をもとに文字を書き、また、自分の持つ美意識で他の人の字も見て、文字のたたずまいに惹きつけられているといえます。

文字は意思を伝えており、書かれた内容や表現された文字の形から、強さ、やさしさ、勢いなど多くのメッセージを見る人に与えます。そこから私たちの心の中に生まれる共感や癒しなどの感情は、自分と向き合う時間を生む機会にもなることでしょう。

今回の展示で、長い歴史と書く人の個性に裏打ちされた書が持つ価値の豊かさに触れていただき、書之美を見つめる機会になることを願っています。



金田心象《破離》



## 寒糊炊きの公開

会場 石川県文化財保存修復工房周辺  
協力 (一財) 石川県文化財保存修復協会  
お問い合わせ 石川県立美術館広域館

電話 076-221-8810



寒糊炊きの様子

毎年恒例の「寒糊炊き」を開催します。「寒糊」とは、大寒に炊いた小麦粉でんぶん糊です。一年で一番雑菌の少ない寒冷の時期に作った糊を甕に貯え、10年以上冷暗所に保管し微生物の働きで熟成させると、接着力の弱い古糊に変化します。掛軸や卷子など軸装の裏打ちに用いて巻き伸ばしを柔軟にする、文化財の修復に不可欠な接着剤です。左記の時間帯に自由に見学ができます。ぜひお越しください。

日時 令和8年1月20日(火)

9時30分～15時

※申込不要・見学無料

※荒天中止

## 近現代工芸(第5展示室)

## 優品選・新春を寿ぐ

12月27日(土)～2月2日(月)

新春を祝う展示として、令和8年の干支である馬にちなんだ作品、松竹梅や鶴亀、鳳凰といった新しい年を祝うにふさわしい図柄の近現代工芸作品を展示します。

西出大三《木彫截金彩色「飾馬」》は、重要無形文化財「截金」保持者の西出が、オリジナルの木彫截金作品の制作を始めた最初期の代表作です。高村光雲に憧れて東京美術学校で木彫を学び、平安時代の仏教美術に魅せられて截金技術を習得した、西出の技術が存分に発揮された作品です。初期作品特有の明るくはつきりした彩色の地に、施された優美な截金の文様は、平安時代後期の仏教美術によく見られるもので、西出の美意識の根幹を垣間見ることが出来ます。木彫による馬は愛らしさの中にも品格をたたえます。

っており、後年の研ぎ澄まされた造形の片鱗がうかがえます。

染織作品からは、日展で活躍した染織作家、談議所栄二による《松の図》を紹介します。昭和45年(1970)第11回日展出品作、4曲1隻の屏風仕立てで、大胆にデフォルメした松の木が、中央に大きく描かれています。こんもりとした葉、複雑に分かれた枝振り、赤みがかったのびやかで力強い幹などから、おそらくアカマツがモチーフと思われます。どこかユーモラスで陽性のエネルギーに満ちた図柄が祝いの場に好まれたのか、金沢市内のとある料亭には、同じ図柄の緞帳が大広間に掛けられています。そのほか、陶芸や漆芸など、さまざまな素材の工芸品で、新しい年をお迎えください。



西出大三《木彫截金彩色「飾馬」》

## 12月の行事予定

### ■対話で！作品鑑賞会

毎月第2日曜日、作品についておしゃべりしながらコレクション展示室を楽しめる日「のびのび鑑賞デー」の恒例開催です。学芸員のサポートのもと、参加者同士で対話しながら作品鑑賞を行います。一人で鑑賞する時とは違った鑑賞の楽しさを味わってみませんか。

日時：12月14日(日) 11時～11時30分 \* 申込不要

集合場所：2階 コレクション展示室前

定員：10名程度(先着)

料金：要コレクション展観覧料

\* 友の会会員のみなさまは、会員証のご提示で無料

### ■土曜講座

①12月6日(土)「《老猿》の彫刻家が見た明治の美術界

－高村光雲『幕末維新懷古談』を読む」

講師：竹内 唯(学芸主任)

②12月13日(土)「美術作品保管のキホン(文化財の虫菌害)」

講師：寺川和子(学芸第二課長)

日時：13時30分～15時

会場：講義室

\* 聴講無料、申込不要

### ■復興支援特別展「ひと、能登、アート。」

東京国立博物館研究員による展示解説

日時：12月14日(日) 13時30分～14時15分 \* 申込不要

料金：要企画展観覧料

## コレクション展「いしかわ工芸図鑑！」より

《淡青釉裏銀彩壺》・《釉裏銀彩切箔組皿》たんせいゆうりぎんさいつぼ・ゆうりぎんさいきりはくくみざら

「釉裏銀彩」は、磁器の素地に銀箔や銀泥で文様を施し、その上から透明度の高い釉薬をかけて焼成する、中田一於（昭和24）を代表する技法です。銀彩は空気に触れると酸化して黒ずんでしましますが、釉薬で覆うことでその輝きを長く保つことができます。



中田一於《淡青釉裏銀彩壺》2001年  
口径10.2 胴径35.7 高さ39.3  
第24回伝統九谷焼工芸展 大賞

《釉裏銀彩切箔組皿》（後期展示12月4日（木）～12月21日（日））は、見込みに大きく銀箔で花文様を描いた作品です。箔は銀よりも薄いため、焼成時に一部が焼けて色が飛ぶことがあります。が、本作ではその現象を巧みに生かし、箔の厚みを調整することで花文に立体感を与えています。



中田一於《釉裏銀彩切箔組皿》1985年  
口径18.9 底径6.3 高さ4.4  
第8回伝統九谷焼工芸展

て作者が独自に開発したものです。銀彩の輝きを引き立てる繊細な色合いからは、作者の卓越した技術と感性が感じられます。

中田の釉裏銀彩の魅力は、釉薬を透して浮かび上がる爽やかな銀色の文様だけでなく、器形や素地の色、釉薬、文様、そして銀の調和が生み出す全体の美にあります。

中田は小松市に生まれ、昭和43年に石川県特産産業伝習生となりました。家業の錦苑窯を継ぎ、陶芸全般の技術を習得します。昭和53年には第25回日本伝統工芸展に初入選、57年に奨励賞、平成2年に文部大臣賞、平成22年に日本工芸会保持者賞を受賞しました。現在は日本工芸会理事や監事を務め、九谷焼技術保存会の会員でもあります。令和7年には重要無形文化財「釉下彩」保持者に認定されました。

## 次回の展覧会

令和7年12月27日(土)  
～令和8年2月2日(月)  
※12/29～1/3(年末年始)は休館

第6展示室	第3・4・6展示室	第5展示室
書の美 【近現代書】	優品選 【近現代絵画・彫刻】	優品選 新春を寿ぐ 【近現代工芸】

前田育徳会 尊経閣文庫分館	第2展示室
加賀藩の美術工芸Ⅱ	茶道美術名品展

## ご利用案内

### コレクション展観覧料

一般 370円(290円)  
大学生 290円(230円)  
高校生以下 無料  
※( )内は団体料金  
12月1日は第1月曜日より  
コレクション展示室無料の日

### 開館時間

午前9:30～午後6:00

### カフェ 営業時間

午前10:00～午後6:00

12月の休館日は  
22日(月)～26日(金)  
29日(月)～31日(水)

知識・経験ゼロから  
デザインを学んで  
在宅ワークを実現しませんか。

TRY IT, NOW.  
Design Life

広告代理店が運営する **デザインスクール**

キテンスクールの  
オンライン授業なら…

- 1 オンラインで好きな時間に  
マイペースで学べます
- 2 スキルアップ・副業・転職  
独立・趣味に活かれます

詳しい資料の  
ご請求はこちら

キテンスクール  
〒569-0071 高槻市城北1丁目14-17  
tel:072-668-3275  
運営/株式会社ウィット

石川県立美術館だより  
第506号(毎月発行)  
2025年12月1日発行  
〒920-0963  
金沢市出羽町2番1号  
Tel:076(231)7580  
Fax:076(224)9550  
URL <https://www.ishibi.pref.shikawa.jp/>

石川県立美術館は電源立地地域対策  
交付金を活用して運営しています。